



ぼらんていあ通信

2月号
通巻 No.483

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2022年2月22日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: <http://sagamiva.info/>

本村市長から「さがみはらSDGsパートナー登録証」をいただきました

さがみはらSDGsパートナー登録証交付式が1月27日(木)午後1時15分から市役所第2別館で開催され、高橋会長が本村市長から直々に、さがみはら津久井産材で製作された登録証をいただきました。

「さがみはらSDGsパートナー」とは、相模原市が、SDGsの達成に向けた取組や地域課題の解決、SDGsの普及啓発に取り組んでいる企業・団体等をパートナーとして登録し、パートナーのネットワークづくりを支援している制度で、ボランティア協会も12月10日に登録されました。

交付式では、市長のご挨拶、登録証の交付と写真撮影、また、パートナーとして新しく参加した団体の意見交換会などがありました。

高橋会長からは、ハンディキャップ運行や傾聴活動などボランティア協会の活動はSDGsの達成につながる取り組みであることを紹介、



本村市長からは「ボランティア協会はボランティア活動を40年間続けられ、さら

に、これから続けようというところは素晴らしいことです。これからも頑張ってください」と励ましの言葉をいただきました。

なお、協会が掲げるSDGsの達成につながる取組・活動の概要は次の項目です。

- ・誰もが安心して住める社会を目指し、ボランティアについての理解を深め実際の活動に繋がられるようボランティア養成のための講座を市社会福祉協議会と協働し開催している。
- ・障がい者や高齢者支援のために、ハンディキャップ運行や傾聴ボランティア活動に取り組んでいる。
- ・安全・安心な暮らしのお手伝いとして、高齢者住まい探しサポーター、家具転倒防止などのボランティアを実践している。
- ・市内の障がい者団体などと連携し、障がい者の社会参加のためのイベントなどを開催している。
- ・引きこもりなどの若者と共同作業やイベントを通して、若者の社会参加を促進するお手伝いをしている。
- ・相模原市社会福祉協議会と協働で「いきるかバンク」を設置し、市民ボランティア登録制度を構築している。



切手グループから

「寄付をいただきました」

2月28日(金)切手グループから高橋会長に、寄付金20万円が手渡されました。

切手グループでは毎週金曜日の午前中に、相模原市社会福祉協議会や一般の方々から集められた使用済み切手を整理しています。

汚れた切手は除き、切手の大きすぎると周囲を一枚一枚5ミリから1センチほど残して切り取るなどの作業をしていて、市内の切手愛好家や趣味で集めていらっしゃる方からお願いして換金していただいています。

切手グループ設立などの詳細は、次ページのツイッターコーナーで白濱さんに語っていただいています。



切手グループ代表の白濱さん(右から3人目)から会長に寄付金を!

Part 2

社会福祉協議会はなくてはならない存在
行政の狭間を埋める

OSWの活躍に期待
「無料学習支援」や「無料学習支援（塾）」
を支援しよう！



相模原市社会福祉協議会（以下、市社協）の組織の「見える化」推進として1回目の総務課取材をさせていただきました。今回は福祉推進課の取材として2月10日（木）10時半から11時30分迄の階下ランチ活動室で山文字課長にお話を伺いました。

★福祉推進課はどんな仕事をするのでしょうか。

市社協の56事業のうち22事業に係わっているのが福祉推進課で、地域支援係と市民活動係の2つで構成されています。市社協の地域福祉活動計画の基本理念「みんなが支えあい、地域の力が育む人ごやまじまち」をがみはらひの実現に向け、身近にある行政の狭間の問題を民生委員さんなど掘り起こし、地域の人々と協力しあい、解決できるような仕組み作りや、市民の参加による活動を推進していきます。

★このようにしてやるのには？

小地域の住民同士の支え合い活動の中心となって進めようという方針を「コミュニティソーシャルワーカー

（OSW）と理解されています。OSWは、

★「OSW」って何ですか？

ねえと各町で、まちづくりセンターとしての2地区1人ずつのOSWを配置して



お忙しい中、丁寧に説明して下さる山文字課長（左）と筆者

います。困っている個人だけではなく、地域にも働きかけて、関係する人、人材への担い手の発掘、体制づくりをポイントとして生活課題への対応にあたるのが主な役割です。

★もう少し具体的に伺えますか？

公的な制度のみでは行き届かない「狭間」の問題。例えば、50代引かれもりの子ども高齢の親の世帯。民生委員さんからの情報提供を受け、知識と経験を持つOSWの出番です。解決に向け、行政への制度申請のサポートのみならず、ボランティアグループが運営する「参加の場」につなげたり、地域で引きこもりの課題を考えるための講座を住民の皆さんと企画するなど、長期支援が可能となる仕組み作りのお手伝いをします。

★これからOSWさんが必要とする人は確実に増えるのですから、心強い存在ですね。

そうですね、市民活動係を中心として子どもの居場所づくりの力を入れてきました。そのかいあって平成30年当時市内20数か所だった「子ども食堂」や「無料学習支援（塾）」は、現在70か所を超えました。こちらでも子どもが安心して集える大事な場所ですから、すぐに活動中の人や、これから新たにやってみたい人へのサポートを引き続き推進し、活動を盛り上げていきたいです。

★このようにサポートの力を入れていますか？

昨年より、取組みを見える化し、市民の皆さんからご自身の理解や支援を頂くという、「子どもの居場所情報サイト」を開設しています。加えて『コロナ禍でも子ども達の集える場所をなくしてはならない』と、安心安全に様々な工夫を凝らしながら活動を続ける各グループの実際の活動風景

を掲載した「子ども居場所事例集」も発行しました。★活動者それぞれの取組みを知る機会や、そのための情報発信は大切ですね。

そうですね、OSWとしてお同様の、地域にそれぞれ固有の課題と、強みがあります。取組みを地域全体で作っていくためにも、まずはOSWの存在を住民の皆さんに十分に周知し、地域のことを考えていただける仲間を増やしていくことが大切です。ですから、ぼらんていあ通信に掲載されたものは本当にありがとうございます。皆さんの反応が楽しみです！

余談ながら、1回目の取材の時も調降でしたが、まだ2回目も調降でした。何かの因縁でしょうか！山文字課長は取材の途中も給食サーブスの件で席を外されるお話を伺いました。本当にありがとうございました。取材に感謝していただき改めて御礼申し上げます。（山崎）

ぼらんていあ通信版

ツイッターコーナー

白濱 豊子

子ども達の高校受験に神奈川県方式がある間、転動族だった一家で相模原に家を建てる落着きライフを送りました。



そして落着きライフを何年か過ごした後、また分からない事が付いて、母田の友達に話したところ「ボランティア」を知った。初めに聞くと「ボランティア」といふかと思いましたが、電話をすれば協力を紹介された。何日も来るのを待たず登録しました。その後社協の広報に「何日も」が、白濱豊子 ボランティア登録一名と載っ

ボランティア活動グループ。訪問記

50年以上もの長い活動を続けている
相模原市点訳赤十字奉仕団



「コロナ禍のきびしい状況の中にあっても感染防止に注意しながら活動を続けている相模原市点訳赤十字奉仕団(略して点奉)をご紹介します。

代表の西田紀子委員長に伺ったお話では、昭和42年に会員の名で相模原市点訳奉仕会として発足し、昭和46年改称、今に到ります。

半世紀もの長い間には、高度成長期を経てバブル崩壊、低成長期と刻々と変化する中でも続けてきたのです。

点訳活動にも時代の変化はありました。木製の点字器で一点一点打っていた時代から、タイプになり、現在はパソコン点訳が主流になりました。また現在では、各地域での蔵書管理から「サピエ図書館」での一括管理に変わり、全国オンラインで即座に情報を得る「じぶがみるよ」になりました。



西田委員長

現在の回員数は約50名。主な点訳活動としては、神奈川県ライオンセンター(目の不自由な方のための支援施設)の蔵書点訳、ウェルネスさがみはらにある視覚障害者情報センターの蔵書点訳。そして相模原市の「広報さがみはら」「福祉のしおり」など行政からの委託事業の他、社会福祉協議会「みんないい人」や福祉団体、個人からの依頼の点訳などがあつます。ほかにも、触地図(手で触ってわかる地図)の制作、

中途失明者の点字指導、小中学校や地域への福祉講座の点字体験などを行っています。

蔵書点訳は、各自のライオンセンター・視覚障害者情報センターから蔵書を預かり、自宅で進めています。

点字版「広報さがみはら」については、毎月1日15日の発行日近く「読者の皆さんへ」へ届くように「回員全員で当番を組み、原稿の受け取りからパソコン入力、校正、印刷、発送までを4日間程度で行っています。昨年5月で1000号に達しました。その他の活動については、触地図、ライオンフリー情報(点字本の紹介)、プライベートサービス、製本、機関紙「げやき」などがあり、回員が分担して行っています。

定例会は毎週木曜日。様々な連絡事項や勉強会に当てています。点字を習得して活動してみたいと思う方は、「広報さがみはら」4月15日号に募集記事を載せていただければ幸いです。ご覧になってください。

今はイベントも開けない状況ですが、回員研修会や回員交流会の日帰り旅行も年1、2回行っています。

また日赤神奈川支部の特別奉仕団として日赤行事への参加、献血手伝いなどもしています。

(杉崎、植野)



点字版「広報さがみはら」



点字プリンターで印刷中

*相模原市点訳赤十字奉仕団
委員長 西田紀子
〒252-0236
相模原市中央区富士見6-1-20
あじさい会館内
TEL 042-759-3963



たのを覚えていきます。

同じ頃「飲ちゃん24時間アソビ」から寄贈されたハンディキャプ1号車があり、運行事務の仲間に入れていただきました。

あじさい会館が建立され、ボランティア協会が設立されたのを機会に、事務局の手伝いを始めました。そして各ボランティアグループや障がい児者の団体などについて本主に多くのことを勉強させていただきました。

暫くして何か技術や特技がなくても出来る簡単な活動はないかと考え昭和61年に有志と使用済み切手を集め整理して、それを必要としている施設などに送る切手グループを始めました。メンバーもそれなりに集まり楽しいグループでしたが、ある施設では白紙から切手を水に濡らして剥がすように言われ四苦八苦したこともありました。

またその時期に朝日新聞のタウン誌に切手グループの活動が掲載され、他県の切手業者から換金しますと連絡があり、グループで相談の上、ハンディキャップ購入に少しでも役立てればと遠方に送るのは大変ですが方向転換しました。

ある日グループの活動を見学した知人が市内にも切手取集家の人達がいるからと紹介していただき、それからずっと長い間お世話になっています。

今では「コロナの関係もあり、少人数でさびやかな活動ですが、32年間寄付を続けたことは、メンバー全員が誇りに思い、これから使用済み切手とおおげさな格闘していきます。



理事会報告

2月19日(土)開催 理事のみなさま

1、報告事項

〈広報委員会〉

・ぼら通部会

・ぼら通2月号(2月22日印刷)・発行

・情報部会

・フェイスブックの閲覧数が伸びている

〈HC委員会〉

・3月19日のHC活動者交流会の準備について

〈事務局委員会〉

・ハンディキャップ利用者向け更新案内について確認

〈講座検討委員会〉

・3月の講座開催に向けて、ネット環境の確認について

〈傾聴委員会〉

・感染対策についてなご再確認

〈DVD制作実行委員会〉

・来年度の動画作成について検討

・40周年記念誌の最終版の目次を確認

2、審議事項

・予算執行状況の確認と検討

・来年度通常総会に向けて日程確認

・オミクロン株に対してボラ協の対応について再確認

3、その他

・今年度の桜まつりは中止と決定

・SDGsパートナーのロゴマークを協会の封筒やリーフレットになご貼付する

【次回理事会】 3月12日(土)10時より。



相模原ボランティア協会 3月の予定

日	時間	内容
1(火)	14:00~	傾聴委員会
6(日)	10:00~	HC委員会
8(火)	13:30~	広報委員会・ぼら通部会
12(土)	10:00~	定例理事会
	13:00~	事務局委員会
19(土)	10:00~	HC活動者交流会
	14:00~	春講座「あたらしいボランティアのかたち」
22(火)	13:00~	ぼら通3月号印刷
23(水)	13:00~	ぼら通3月号発行
24(木)	9:00~	40周年記念誌印刷・製本

ご連絡

会員登録について

次年度の会員登録を、今年度から4月1日から受け付けていただきます。

ぼらんていあ通信の印刷手続きの案内を掲載いたします。

よろしくお願いたします。

事務局



3月の記念日は？

小倉義男

3月11日、パンダ発見の日。

1869年のこの日、中国四川省の民家で、伝道中のフランス人神父アルマン・ダヴィドが、白と黒の奇妙なクマの毛皮を見せられた。これが、欧米でジャイアントパンダが知られるきっかけとなり、記念日に制定。

上野の双子パンダのシャオシャオとレイレイ、今後の成長が楽しみです。(^o^)

小倉画



相模原青年会議所賀詞交歓会に参加！

会長 高橋 功

2022年1月26日に杜のホールはしもとで相模原市青年会議所(JCI)賀詞交歓会が開催されました。

JCIの会員は158人で、新理事長の梅津賢一氏は「Wish~人をつくる、未来を変える~」をスローガンとし明るい豊かな社会を実現するために精進すると力強く宣言されました。

当協会もこの若い力と連携して活動出来ないかを探っていきたいと思っております。



会員のひろば

様々なボランティア活動をなさっている会員のみなさんに、活動の紹介も経験したことを話していただくコーナーです。

チベット人サポーターとして

小林 瑞枝



チベット人の有名人といえば他でもありません。ダライ・ラマ十四世。1989年ノーベル平和賞を受賞、現在はチベット亡命政府があるインド北ラサツに居住、チベット仏教の法王です。2022年の7月5日で87歳になります。

私がチベット国やチベット人を知り、この人たちのためにサポーターをしようと考えたきっかけは、ダライ・ラマの講演をハワイ・マウイ島の戦勝記念スタジアムで聴いた時。その時点では、まだチベットについては殆ど何も知らずでした。スタジアムには地球のあちこちから集まった二万人の聴衆とそして青い空の下、日差しは強くても心地良い風が吹く中で初めて聴くダライ・ラマのお話でした。

講演はチベット語と英語の通訳が入るものの英語の理解不能、ましてやチベット仏教の教えも。二つの難しい課題を乗り越えての理解力は到底無い私でしたが、声を聴いているだけで心が落ち着き満足、ただその声を音楽のように聴いていました。

時々ダライ・ラマが楽しそうに笑うのです。嬉しそうに、気持ちよさそうに、そして聴衆も笑い、青空の下にその笑い声が響き渡りました。とても幸せな瞬間でした。

この時に、ダライ・ラマ十四世がかつて書いていたチベットやチベット人のことを知ることができた

のよう。

1959年3月、チベットのラサツにいたダライ・ラマは中国軍の侵攻に亡命を余儀なくされました。24歳でした。1959年から始まった中国共産党・中国人民解放軍によるチベット国侵略は首都ラサツまで手が延びやむを得ずラサツを脱出、雪のヒマラヤを超えインドに亡命、その後亡命政府を設立、以来60年余のチベットは中国の侵略、人権侵害を受け続けています。チベット仏教文化への弾圧として僧院破壊、僧侶の投獄、拷問など、チベット人への迫害と子供たちにチベット語の教育禁止に、文化、人権への弾圧は及んでいます。これらの事実は東京にあるチベットハウスと呼ばれるダライ・ラマ法王日本代表部事務所に行くようになり知りました。

2022年2月5日から「北京冬のオリンピック」が開催されています。先日港区の六本木にある三河台公園にチベット、ウイグル、南モンゴル、台湾の人々、そして彼らを支援するサポーターが集まり中国政府人権弾圧を糾弾し「北京オリンピック開催を反対」する抗議デモがあり私も参加。チベット国旗を掲げ日比谷公園までの距離を「人権弾圧反対」とシュプレヒコールを上げながら1時間歩きました。

中国政府が強大な力を持ち、国が発展してきた影には多くの弾圧を受けている民族や人々がいることを他の人々に知らしめ何よりも守られなければならない人権の尊重を訴えたかった。2008年の北京オリンピック開催時でも在留のチベット人たちと中国の「人権弾圧反対、北京オリンピック開催反対」と叫びながら抗議デモをしました。14年経た今、状況は少しも改善されることなくチベットのみならずウイグル、南モンゴル、香港も人権を侵害され苦し

ボランティア見本市-Part 1
新しいボランティアのかたち

講座のご案内



新型コロナ感染症発症から2年が経ち、人々の暮らしは経済的にも人との関りも変更を迫られてしまいました。今こそ次世代に残せる社会を構築しなければと、「新しいボランティアのかたち」をテーマに、今、必要とされているボランティア活動をなさっている方々からお話を伺います。

日時：2022年3月19日(土) PM2:00~4:00

場所：あじさい会館6階 第1展示室

内容：・SDGsとボランティア活動

- ・子ども食堂活動
- ・無料塾学習支援
- ・外国籍の方へのボランティア活動
- ・ハンディキャブ号活動
- ・傾聴ボランティア

参加をお待ちしています

とでいる犠牲者が増えているのはとても悲しいことです。シュプレヒコールをあげながらの1時間の抗議デモにどんな効果があるのかと自問しながらも居ても立ってもいられないから歩きました。ダライ・ラマの言葉を胸に刻みつつ。
「愛、ゆるし、思いやりにより、私たちははたはたなる希望と決意を手取り、より明るい未来に向かつて進むことが出来ます。(中略)ゆるしとは『相手を無罪放免』する手段『ではなく』自分を自由にする手段』です。」
*ダライ・ラマ十四世の言葉より
●参考文献
「希望」チベット亡命50年 2010年6月19日
ダライ・ラマ法王日本代表部事務所(チベットハウス)発行



子どもの居場所づくりオンラインセミナー開催のお知らせ！



(1) 3月8日(火) 午後2時～4時『子供の居場所づくりセミナー』

子供の居場所づくりの基礎知識をお伝えすると共に、市内で活動している子どもの居場所運営者をお招きし、実際の活動でのやりがいやご苦労、今後の課題、展望などをお聞きます。子どもたちのために何ができるか、一緒に考えてみましょう！

(2) 3月21日(月・祝) 午後5時～7時『学生×子どもの居場所づくりセミナー』

子どもにとって身近なロールモデル(憧れ、目標)となる学生さんと居場所運営者との交流の時間を設け、参加者が春に向けて新たな一歩を踏み出せるよう後押しします。ぜひご参加ください！

連絡・問い合わせ先

相模原ボランティア協会あじさい連絡所 : 電話 042(759)7982

相模原市社協 中央ボランティアセンター : 電話 042(786)6181

メール svc@sagamiharashishakyo.or.jp

★申し込みは右のQRコードからお申込みください。



☆市内の子供食堂や学習支援活動のことを知りたい人必見！こどもの居場所活動の情報をまとめた「子どもの居場所情報サイト」を市社協で運営しています。ご興味のある方は左のQRコードからアクセスしてみてください！

耳より情報

こんなアプリが！

みんなで作るバリアフリーマップ

WheelLog!アプリ

WheelLog! (ウィーログ) は、みんなでバリアフリー情報を共有して作るバリアフリーマップです。車いすで実際に走行したルートや、車いすユーザーが利用できる施設や設備などユーザー自身が実際に利用したスポットなどを投稿することで、バリアフリー情報を共有します。世界のユーザーとシェアすることで、車いすユーザーの世界が変わり、あなたの「行けた！」が誰かの「行きたい！」に。ダウンロードはWheelLogで検索してください。



山口尚美画

《今月のイラスト
「...もうすぐ春だねー」》

北京五輪は立春の日に始まって連日選手の活躍が報道されている。が、春は名のみ。この冬3度目の大雪情報、幸い積雪はなく一安心。
梅の開花は例年より遅いようだ。甲子年の季節も来ようー(三)

編集後記

ご寄付をありがとうございました

皆様のご寄付は当協会の運営に有効かつ大切に使用させていただきます。

<1月の寄付者>

切手グループ様

その他4名の方からご寄付をいただきました。

<1月の寄付金>

総額 206,670円でした。

